「日吉の思い出」（抜粋）　　金谷珠子

昭和14年から17年、日吉小学校での新任教員時代

『日吉小学校開校80周年記念誌』掲載

（略）昭和14年から17年まで満3年勤務させていただきましたが、その間の思い出を綴らせていただきます。

幼い頃からの夢が叶って小学校教員の辞令を受けました私は、嬉しさいっぱいで勇躍初任地の旧隈川小学校（注：吉野）に着任いたしました。わずか5ヵ月で交通の便利な旧手師学小学校（注：日吉）へ転任いたしました。私の青春時代で、全情熱を傾けて生きた期間でございました。

教員住宅は1戸建てに3世帯同居の生活で、6畳と4畳半の2間でした。後ろの山から湧き出る水を鉄管で引いて年中おいしい水が水槽に満ちあふれていましたので、「明泉舎」と名づけられました。（略）

当時、学校は高等科併置の3学級で、私は2・3・4年が受け持ちでした。翌年4学級になり、1・2年生の担任になりました。家庭から真っ直ぐ入学してくる1年生のかわいい目が今でも瞼に浮かびます。

春先は雪解け水が小川からあふれ、学校周辺の道路も田畑も水びたしとなり、臨時休校がたびたびでした。神社の山から眺めると一面に浸水し、家々がポツポツと見えていました。

夏は、子どもたちと小川へ魚すくいに出かけたものです。一度、大きなマスが網の中に飛び込み、びっくりした私は、網もろとも川原へ放り投げました。ピンピン跳ね回る魚を子どもたちが石をぶつけていたのを思い出します。魚の処理をどうしたのかまでは記憶に残っていません。でも、ときどき思い出す印象深いできごとでした。

秋はキノコ採りも楽しく、冬に備えて裏山の奥深くガンピ（白樺の樹皮のこと）を取りに出かけ、たくさんのガンピを背負ってヒョロヒョロ帰ったりもしました。

冬になりますと、朝起きて部屋のストーブをつけ、早朝から登校してくる子どもたちがかわいそうで、教室に出かけて火種やガンピでストーブを焚きつけ、教室を暖めて帰宅し、朝食などをして出勤という、今思えば危ないことをしたものと反省されます。

下校前には、カチカチに凍った長靴をストーブの周りに並べて温めたものです。

のこぎりでゴシゴシ薪を切ったり、まさかりを振り上げて木を割る勇ましい私の姿を見たのか、青年学校の生徒さんが知らぬ間に、きれいに小割りした薪を積み上げてくださったり、なかよく遊んでくれました。

小貫さん宅では、お餅つきやら漬けもの作りなどを一緒にさせてもらったことなど、私は人びとの愛情に包まれて幸せな日々の連続でした。

あの当時は戦時下で、出征兵士のお見送りもたびたびありました。朝礼の後、行進曲に合わせて全校生徒が運動場を正常歩で1周してから各教室に向かいました。

国の方針で蚕を飼うようになり、男子の上級生は桑の葉を集めてきて、女子生徒は屋内運動場いっぱいに置かれた蚕に桑の葉を与え、繭になったら真綿に仕上げました。

網走の女子校へ管内の女子教員が1校1名ずつ召集されて3日間、なぎなたの特訓を受けました。2階に上がりかねるほどクタクタにしごかれました。帰校して上級の女子生徒

と「エイッ、ヤー」と声を張り上げて練習に励む大変な時代でした。（略）

＊注

昭和８年４月１日　校名を手師学尋常高等小学校と改称・修業年限２ヶ年の高等科併置
　　７月25日　教室20坪、廊下15坪５合、便所６坪、竣工・落成
昭和11年11月15日　新校舎増築落成式　２教室40坪、廊下17坪
昭和16年４月１日　国民学校令公布により常呂郡手師学国民学校に改称
昭和17年４月１日　字名改称により校名を日吉国民学校に改称